

★新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休日の発熱外来 12月13日から

小金井市は、新型コロナウイルス感染症の対策として、土日・祝日の休日診療と年末年始に、発熱外来を設置することになりました。市民や日本共産党等が、一貫して要求し続けてきたものです。小金井市医師会の協力に感謝します。

発熱外来は、小金井市保健センター（貫井北町）に設置されます。休日診療医療機関の紹介に基づき、診療できるようになります。

★中学校の体育館へのエアコン設置は来年度に

今年も暑い夏でした。小中学校の普通教室にはエアコンが設置されていますが、体育館は未設置です。小学校は今年度中に全校設置する予定です。中学校については、来年度の設置に向け、予算化する予定です。新日本婦人の会が市長に申し入れを行う中で明らかになりました。森戸元市議も申し入れに同席しました。

のど元過ぎれば熱さ忘れる？ごみ減量はどこへ？

リサイクル事業所の廃止を強行する西岡市長

西岡市長は今年8月31日に、シルバー人材センターが運営していたリサイクル事業所を閉鎖しました。理由は、インターネット等の民間でのリユースが行われており、リサイクル事業所の役割は終わったため。

しかし、多くの市民からリサイクル事業所は存続させてほしいという声が寄せられ、森戸よう子元市議は、市民と一緒に「ごみの減量とリサイクルを考える会」に参加し、市議会に陳情書を提出しました。

日本共産党市議団は、「ごみの減量に欠かせないリサイクル事業所は存続すべき」と主張。陳情書は、自民、公明党が反対しましたが、賛成多数で採択されました。

市議会は存続の意志を明らかにしましたが、西岡市長の対応が見えません。

小金井市は、ごみ焼却場建設を巡って厳しい状況におかれた時がありました。のど元過ぎれば熱さを忘れるという状態です。ごみゼロ化をめざす小金井の計画からも外れた対応です。

森戸よう子元市議は、「市の方針を撤回させ、リサイクル事業所が再開できるよう市民のみなさんとともに声をあげ続けます。」と語っています。

小金井社会保障推進協議会

まちかど相談会とフードドライブ

小金井市内の業者、年金、医療などの団体で構成する社会保障推進協議会は、9月26日武蔵小金井駅南口で、「新型コロナウイルス感染症、お困りごと相談会」と各家庭から寄付していただいた食料品を配布する「フードドライブ」を開きました。

森戸よう子元市議も参加し、新型コロナ感染症でお困りごとはありませんかと呼びかけました。当日は、高齢者や学生20名以上の方に、お米や缶詰などを渡すことができました。

森戸よう子元市議は、この間お困りごと相談を20件以上対応。「お困りごとがあればご相談ください」と呼びかけています。

相談活動に取り組むメンバー



<森戸よう子のプロフィール>

- 1956年鳥取県米子市で生まれる。
- 鳥取県立米子西高校を卒業後、1980年東京都立大学経済学部経済学科を卒業。
- 1989年4月小金市議選に初当選。連続8期当選。2019年12月の市長選に挑戦し善戦健闘（10399票獲得）。
- 出産し議員活動する女性議員の草分け。市議会初の女性議長として、議員の協力を得て情報公開をすすめる。その他に副議長、議会運営委員長、議会基本条例策定委員会座長など歴任。
- 乳幼児医療費の無料化、小中学校の児童・生徒の医療費助成の所得制限撤廃など条例提案を活発に行うなどして実現。
- 住民の声を尊重しながら困難なごみ焼却場問題の解決に尽力する。
- 市民といっしょに自ら署名活動に取り組み、駅前庁舎建設の巨費投入にストップをかけ、大型開発に多額の税金投入を抑制させる。

野党の連合政権を誕生させ、
医療をはじめケアに手厚い社会へ

日本共産党